

殺虫剤

ダントツ® 水溶剤

クロチアニジン…………… 16.0%

種類名／クロチアニジン水溶剤
 農林水産省登録／第20798号（住友化学登録）
 毒性／普通物*
 有効年限／5年
 包装／125g×60、250g×30

特 長

- 浸透移行性に優れ、カメムシ目、ハエ目、コウチュウ目、チョウ目、バッタ目、アザミウマ目の各種害虫に高い防除効果を発揮します。
- 幅広い殺虫スペクトラム
 アブラムシ類、コナジラミ類、ウンカ類、ヨコバイ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類などのカメムシ目害虫、アザミウマ目害虫に加えて、ハモグリバエ、ハモグリガ、ホソガ、シンクイムシ、カミキリムシなどハエ目、チョウ目、コウチュウ目害虫に対して経口または経皮的に作用し、高い防除効果を示します。
- 浸透移行性
 莖葉部から作物体内に吸収され、作物全体へ浸透移行していきます。また、トランスラミナー作用により、葉の表から裏への移行性も示しますので、アブラムシなど葉裏に生息している害虫にも優れた防除効果を発揮します。
- 幅広い作物に使える
 稲、野菜、落葉果樹、かんきつ、茶、花きと幅広い作物に使用できます。
- 顆粒タイプの水溶剤
 顆粒タイプの水溶剤ですので、薬液調製時の粉立ちが少なく、また作物が汚れる心配が少ない薬剤です。

適用害虫と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イネドロオイムシ イネアザミウマ	4000倍	60～150 ℓ	収穫7日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔直播での種時又は 移植時までの処理は 1回、本田での散布、 空中散布、無人航空 機散布は合計3回〕	散布
	ウンカ類 カメムシ類 イネドロオイムシ	1000倍	25 ℓ			
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ	200倍	育苗箱 〔30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ〕 1箱当り 500ml	移植3日前 ～移植当日	本剤 1回 クロチアニジン剤 4回 〔移植時までの処理は 1回、本田での散布、 空中散布、無人航空 機散布は合計3回〕	育苗箱の 上から均 一に散布 する
		高密度に は種する場合は 50g/10a 〔育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.25～5g (希釈倍数 100～200倍)〕				
	イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	200～400倍				
		高密度に は種する場合は 50g/10a 〔育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1.25～5g (希釈倍数 100～400倍)〕				

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
りんご	カメムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 コナカイガラムシ類 リンゴワタムシ ケムシ類 コガネムシ類成虫	2000～ 4000倍	200～700ℓ	収穫前日 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回	散布	
	なし						シンクイムシ類 アブラムシ類 コナカイガラムシ類 カメムシ類 ケムシ類 チュウゴクナシキジラミ
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	2000倍		収穫7日前 まで			
	コガネムシ類 クビアカツヤカミキリ						
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	2000～ 4000倍		収穫3日前 まで			
	コガネムシ類						
おうとう	オウトウショウジョウバエ カメムシ類	2000倍		収穫前日 まで			本剤 2回 クロチアニジン剤 2回
うめ	ケシクスイ類 クビアカツヤカミキリ	2000～ 4000倍					
	アブラムシ類 ケムシ類 カメムシ類						
すもも	クビアカツヤカミキリ	2000倍		収穫3日前 まで			本剤 3回 クロチアニジン剤 3回
	カメムシ類 アブラムシ類	2000～ 4000倍					
あんず	アブラムシ類	4000倍	収穫前日 まで				
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ フタデンヒメヨコバイ ブドウトラカミキリ カメムシ類 コガネムシ類	2000～ 4000倍					

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ アザミウマ類 ケシキスイ類 コアオハナムグリ ツノロウムシ コナカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカマルカイガラムシ ナシマルカイガラムシ	2000～ 4000倍	200～700ℓ	収穫前日 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 6回 樹幹散布は3回、散布 及び無人航空機散布 は合計3回	無人航空機 散布	
	ミカンバエ ミカンキジラミ コナジラミ類 アオバハゴロモ	24倍	4～8ℓ				
		48倍	4～16ℓ				
	カネタタキ		2000倍	200～700ℓ		収穫150日 前まで	無人航空機 散布
			24倍	4～8ℓ			
			48倍	8～16ℓ			
		ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ	20倍	100ml/樹		収穫150日 前まで	無人航空機 散布
		ミカンキジラミ	40倍	200ml/樹			
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ アゲハ類 アブラムシ類	20倍	10～100ml /樹	春芽・夏芽 又は秋芽の 発生前		樹幹散布	
かき	カキノヒメヨコバイ アザミウマ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ カメムシ類	2000～ 4000倍	200～700ℓ	収穫7日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回	無人航空機 散布	
	いちじく			アザミウマ類			収穫3日前 まで
		カミキリムシ類		2000倍			
びわ	アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類	2000～ 4000倍		収穫前日 まで			
	カミキリムシ類	2000倍					
なつめ	ゴマダラカミキリ	4000倍		収穫7日前 まで			
さんしょう (果実)	アザミウマ類			収穫前日 まで			本剤 2回 クロチアニジン剤 2回
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ マエアカスカシノメイガ	2000～ 4000倍		収穫前日 まで			
	カメムシ類	2000倍					
オリーブ(葉)	オリーブアナアキゾウムシ マエアカスカシノメイガ	4000倍	収穫120日 前まで				
マンゴー	アザミウマ類 コナカイガラムシ類	2000～ 4000倍	収穫7日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回			
パパイヤ	ナガカタカイガラムシ ヒラタカタカイガラムシ	2000倍	収穫3日前 まで				

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法		
ブルーベリー	アブラムシ類 ケムシ類 オウトウショウジョウバエ	2000～ 4000倍	200～700ℓ	収穫45日 前まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回	散布		
キウイフルーツ	キウイヒメヨコバイ カメムシ類 アオバハコロモ			収穫前日 まで				
パイナップル (苗木)	パイナップルコナカイガラムシ	2000倍	—	植付前	本剤 1回 クロチアニジン剤 1回	10秒間 苗浸漬		
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類 アカスジカスミカメ ツマジロクサヨトウ	2000～ 4000倍	100～300ℓ	収穫3日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回	散布		
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類 コナジラミ類 カメムシ類			収穫前日 まで			本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔育苗期の株元処理及 び定植時の土壌混和 は合計1回、散布及 び定植後の株元散布 は合計3回〕	
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ ウリハムシ ハモグリバエ類							
すいか	アブラムシ類 ウリハムシ ミナミキイロアザミウマ			2000倍			収穫3日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔定植時の土壌混和は 1回、散布は3回〕
にがうり	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ			2000～ 4000倍				
かぼちゃ	アブラムシ類 ウリハムシ カボチャミバエ			2000倍			収穫3日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔定植時までの処理は 1回、定植後の散布 は3回〕
とうがん	ミナミキイロアザミウマ							
食用へちま	アブラムシ類			2000～ 4000倍			収穫前日 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔育苗期の株元処理及 び定植時の土壌混和 は合計1回、散布及 び定植後の株元散布 は合計3回〕
なす	ミナミキイロアザミウマ ハモグリバエ類 アブラムシ類 コナジラミ類 テントウムシダマシ類 カメムシ類							
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類			2000倍			収穫前日 まで	本剤 2回 クロチアニジン剤 3回 〔定植時までの処理は 1回、散布及び定植 後の株元散布は合計 2回〕
ピーマン	アブラムシ類 コナジラミ類 カメムシ類 ミナミキイロアザミウマ	2000～ 4000倍 2000倍						
とうがらし類	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	2000～ 4000倍 2000倍		本剤 3回 クロチアニジン剤 3回				

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
キャベツ	アブラムシ類 アザミウマ類	2000～ 4000倍	100～300ℓ	収穫3日前 まで	本剤 2回 クロチアニジン剤 3回 〔定植時までの処理は 1回、定植後の散布 は2回〕	散布
	アオムシ コナガ	2000倍				
はくさい	アブラムシ類	2000～ 4000倍		収穫前日 まで	本剤 2回 クロチアニジン剤 5回 〔定植時までの処理は 1回、定植後の散布 は2回、定植後の株 元散布は2回〕	
	アオムシ コナガ	2000倍				
ブロッコリー	アブラムシ類	2000～ 4000倍		収穫3日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔定植時までの処理は 1回、定植後の散布 は3回〕	
	アオムシ コナガ	2000倍				
はなっこりー	アブラムシ類			2000倍	収穫前日 まで	
だいこん	アブラムシ類 ダイコンハムシ	2000～ 4000倍		収穫7日前 まで	本剤 2回 クロチアニジン剤 3回 〔は種時の土壌混和は 1回、は種後は2回〕	
かぶ	アブラムシ類			収穫3日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔は種時の土壌混和は 1回、散布は3回〕	
				収穫7日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回	
こまつな	アブラムシ類			収穫3日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔は種時の土壌混和は 1回、散布は3回〕	
チンゲンサイ	アブラムシ類			2000倍	収穫7日前 まで	
			みずな			アブラムシ類
しゅんぎく	アブラムシ類		2000～ 4000倍	収穫3日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔は種時の土壌混和は 1回、散布は3回〕	
レタス	アザミウマ類 ナモグリバエ					2000倍
	非結球レタス		アブラムシ類 ナモグリバエ	2000～ 4000倍 2000倍		

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法				
ね ぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	2000～ 4000倍	100～300 ℓ	収穫3日前 まで	本剤 4回 クロチアニジン剤 4回 〔定植時までの処理は 1回〕	散布				
わ け ぎ あ さ つ き					本剤 4回 クロチアニジン剤 4回					
に ら					ネギネクロバネキノコバエ		2000倍			
	アブラムシ類	2000～ 4000倍								
に ら (花茎)	ネギアザミウマ	4000倍	収穫前日 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回						
ばれいしょ	アブラムシ類	1000倍	25 ℓ	収穫7日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔植付時の土壌混和は 1回、植付後は3回〕		散布			
	テントウムシダマシ類	2000～ 4000倍	100～300 ℓ		本剤 2回 クロチアニジン剤 3回 〔植付前の処理は1回、 植付後は2回〕					
か ん し ょ	アブラムシ類				本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔植付時までの処理は 1回、植付後は3回〕					
					やまのいも	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔植付時までの処理は 1回、植付後は3回〕				
て ん さい	テンサイトビハムシ カメノコハムシ テンサイモグリハナバエ アブラムシ類				100～ 200倍	1 ℓ /ペーパー ポット1冊 [3 ℓ /m ²]		定植前	本剤 1回 クロチアニジン剤 4回 〔定植前の灌注は1回、 散布は3回〕	灌注
	カメノコハムシ テンサイモグリハナバエ アブラムシ類				2000～ 4000倍	100～300 ℓ		収穫14日 前まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔定植前の灌注は1回、 散布は3回〕	散布
豆 類 (種実、但し、 だいず、あず き、いんげん まめ、らっか せいを除く)	アブラムシ類	収穫7日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回							
	あ ず き	マメホソクチゾウムシ	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔は種時の処理は1回、 は種後は3回〕							
いんげんまめ	アブラムシ類 カメムシ類	2000倍	収穫前日 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回						
	インゲンマメゾウムシ			本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔は種時の土壌混和は 1回、散布は3回〕						
だ い ず	マメシクイガ	2000～ 4000倍	収穫7日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔は種時の土壌混和は 1回、散布は3回〕						
	アブラムシ類 カメムシ類 フトスジヒメハムシ			収穫3日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 3回					
豆 類 (未成熟、但し、 えだまめを除く)	アブラムシ類									

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法		
えだまめ	アブラムシ類 カメムシ類 フタスジヒメハムシ	2000～ 4000倍	100～300ℓ	収穫前日 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔は種時の処理は1回、 は種後は3回〕	散布		
	オクラ	2000～ 4000倍			本剤 3回 クロチアニジン剤 3回			
ほうれんそう	4000倍	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔は種時の土壌混和は 1回、散布は3回〕						
みつば	2000～ 4000倍	収穫3日前 まで			本剤 3回 クロチアニジン剤 3回			
パセリ	4000倍	収穫14日 前まで			本剤 1回 クロチアニジン剤 1回			
せり	2000倍	親株養成期 但し 収穫45日 前まで			本剤 2回 クロチアニジン剤 2回			
セルリー	2000～ 4000倍	収穫3日前 まで			本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔定植時の土壌混和は 1回、散布は3回〕			
	ハモグリバエ類						2000倍	
アスパラガス	アブラムシ類 ネギアザミウマ ジュウシホシクヒナガハムシ カメムシ類	2000～ 4000倍			収穫前日 まで		本剤 3回 クロチアニジン剤 3回	散布、 但し花穂の 発生期には マルチフィ ルム被覆に より散布液 が直接花穂 に飛散しな い状態で使 用する
みょうが (花穂)	ナスコナカイガラムシ	2000倍					本剤 3回 クロチアニジン剤 3回	
みょうが (莖葉)			みょうが(花 穂)の収穫 前日まで 但し、花穂を 収穫しない 場合にあって は開花期 終了まで	散布				
れんこん	クワイクビレアブラムシ	2000～ 4000倍	収穫7日前 まで	本剤 3回 クロチアニジン剤 4回 〔植付時までの処理は 1回、植付後は3回〕				
くわい	アブラムシ類	2000倍		本剤 3回 クロチアニジン剤 3回				

(つづく)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
茶	チャトゲコナジラミ	2000倍	200～400ℓ	摘採7日前 まで	本剤 1回 クロチアニジン剤 1回	散布
	マダラカサハラハムシ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホンガ ツマグロアオカスミカメ コミカンアブラムシ	2000～ 4000倍				
きく	ナモグリバエ アブラムシ類	4000倍	1ℓ/m ²	発生初期	本剤 4回 クロチアニジン剤 4回	生育期 株元灌注
	アザミウマ類	2000～ 4000倍	100～300ℓ			散布
ばら	ハモグリバエ類 カメムシ類					2000倍
	アザミウマ類	2000～ 4000倍	100～300ℓ			
花き類・ 観葉植物	アブラムシ類 アザミウマ類			2000～ 4000倍	100～300ℓ	発生初期
デイゴ	デイゴヒメコバチ	2000倍	200～700ℓ	本剤 5回 クロチアニジン剤 5回		
げっきつ	ミカンキジラミ	40倍	200ml/樹	生育期	本剤 6回 クロチアニジン剤 6回	樹幹散布
さくら	クビアカツヤカミキリ	2000倍	200～700ℓ	成虫発生 初期	本剤 5回 クロチアニジン剤 6回	散布
つつじ類	ツツジグンバイ	2000～ 4000倍	100～300ℓ	発生初期	本剤 6回 クロチアニジン剤 6回	
たदै	アブラムシ類	2000倍			本剤 4回 クロチアニジン剤 4回	
わた			本剤 2回 クロチアニジン剤 2回			

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
水田作物、 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ス スキ、セイタ カアワダチソ ウ等の多年生 雑草が優占し ている休耕田	カメムシ類	4000倍	60～150ℓ	—	本剤 4回 クロチアニジン剤 4回	散布

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粕として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が50g/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの葉量を1.25から5gまでの範囲で調整してください。
- 稲およびばれいしょに対して希釈倍数1000倍で使用する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。



- ① ミツバチの巣箱およびその周辺にかからないようにしてください。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないでください。

②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさせていただきます。

③関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを
確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止
に努めてください。

- マルハナバチに影響を及ぼすおそれがあるので注意してください。
- 無人航空機散布に関する注意については「製品情報と注意事項」の見方、「空中散布、無人航空機（無人ヘリコプター等）散布・滴下に関する注意」をご参照ください。
- 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■薬害

- 稲（箱育苗）に使用する場合は、育苗箱の上から所定量の希釈薬液を均一に散布してください。
また、軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには、葉害を生じるおそれがあるので注意してください。
- ぶどうに使用する場合、袋かけ前までの幼果期に散布すると品種によっては果粉が溶脱するおそれがあるので注意してください。
- かんきつに樹幹散布で使用する場合は、樹幹部から地際部に十分量を散布または塗布してください。
また、散布液が葉にかかると葉害を生じるおそれがあるので、葉にかからないように十分に注意してください。

■蚕毒

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

■水産動植物への注意

- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。使用後は洗眼してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

■貯蔵上の注意

- 密封し、直射日光をさけ、食品と区別してなるべく低温で乾燥した場所に保管してください。

本資料の記載内容は2024年7月25日現在の登録内容に基づいています。